

(参考) 一人ひとりに適した個別化医療へ



出所) 持続可能で質の高い医療提供体制構築に関する提言 持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム (2021年5月11日)

シーン⑨：災害・セキュリティリスクへの対応

[現状]

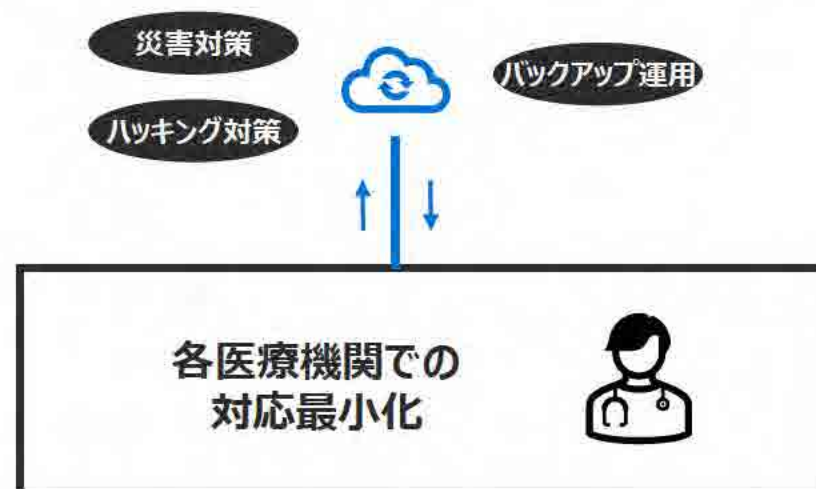
個別対応で、患者情報の漏洩・消失



- 災害やハッキングなどで、医療機関が個別に保存していたカルテ情報が消失する事象が発生する。また、医療機関において個別にバックアップを取れていない事態も生じる。
- このような状況下では、患者の過去の治療・処方歴等不明の状態となる。さらに、医師等が患者対応した内容などの行政等への報告が、紙・電話等となり、医療現場において集計・分析の業務負担が高まる状況にある。

[あるべき姿]

個別やクラウド対応で、強固なセキュリティ

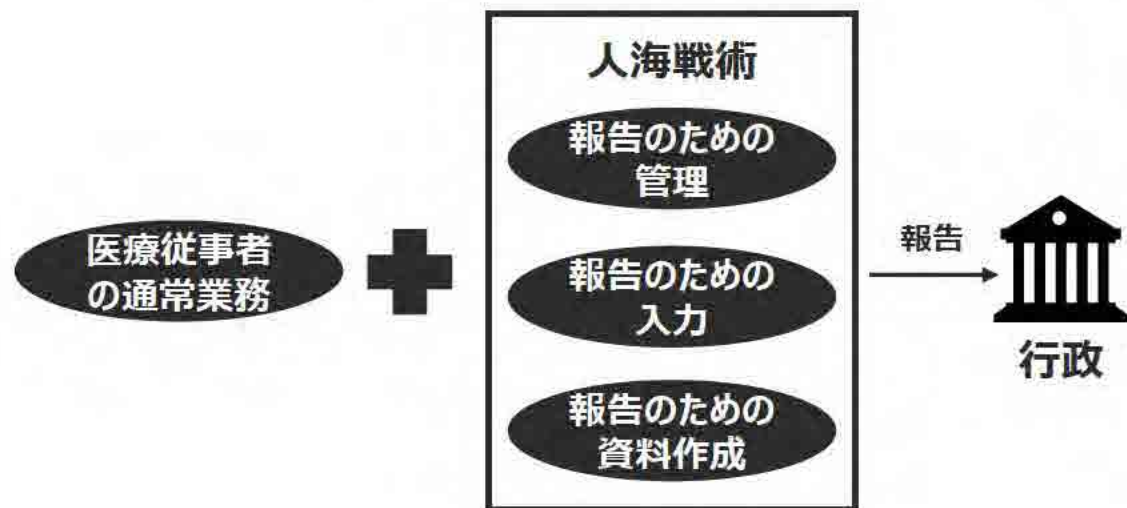


- 保存していたカルテ情報が消失せず、災害時などにおいても、患者の過去の治療・処方歴等のアクセスができ、医療従事者等が患者対応を継続して行え、行政等への報告も行えている。

シーン⑩：パンデミック禍での報告対応

[現状]

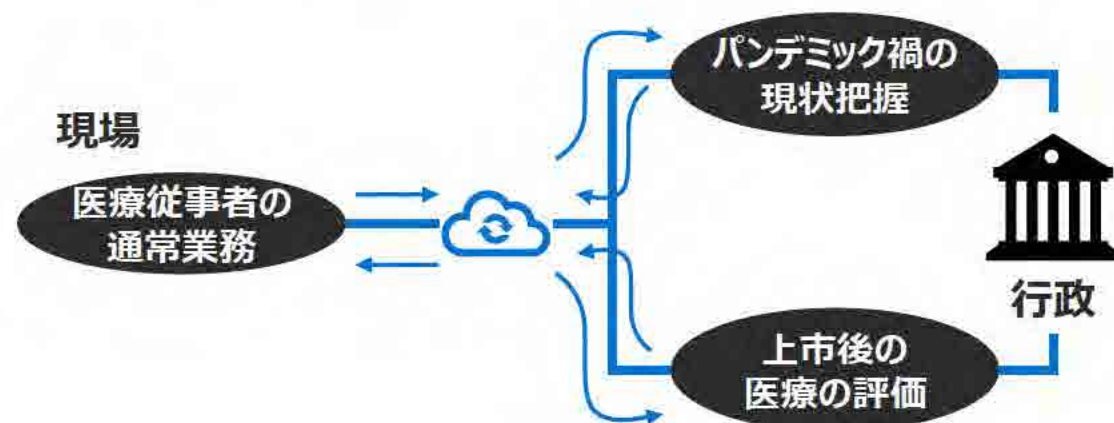
現状を人海戦術で把握
(医療従事者に負荷)



- 新型コロナウイルスのパンデミック禍において、誰がどのような状況にあり、市中の医療機関も今のような状況であるか、行政への報告のための入力業務などが新たに発生する。

[あるべき姿]

通常業務を通して各種報告
(医療現場の負担軽減や業務効率化)

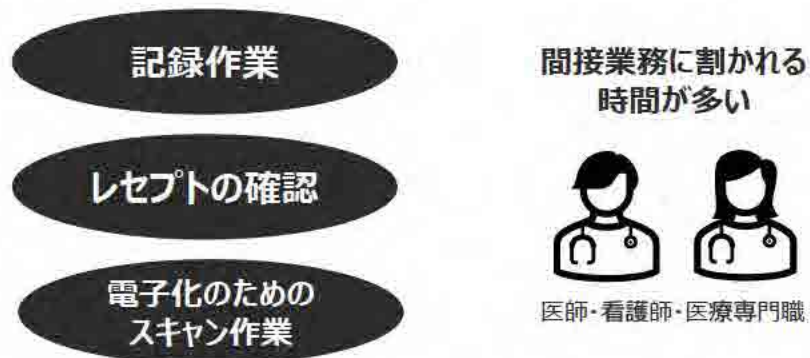


- コロナ病床の配分や、過疎地域における診療科、病床数、医師・看護師数などについて、如何に効率的・効果的に配分していくか、現在のデータに基づき即座に検討できる。
- 国民・患者がどこに住んでいても、最善の治療が受けられる状態をより実現するために、限られた医療資源を効果的に配分するためにデータに基づき検討できている。
- パンデミック禍において、誰がどのような状況にあり、市中の医療機関は今のような状況であるか、「医療現場も、行政も現状を即時把握することでさまざまな措置を迅速に行えている。

シーン⑪：診療報酬請求のための業務対応

[現状]

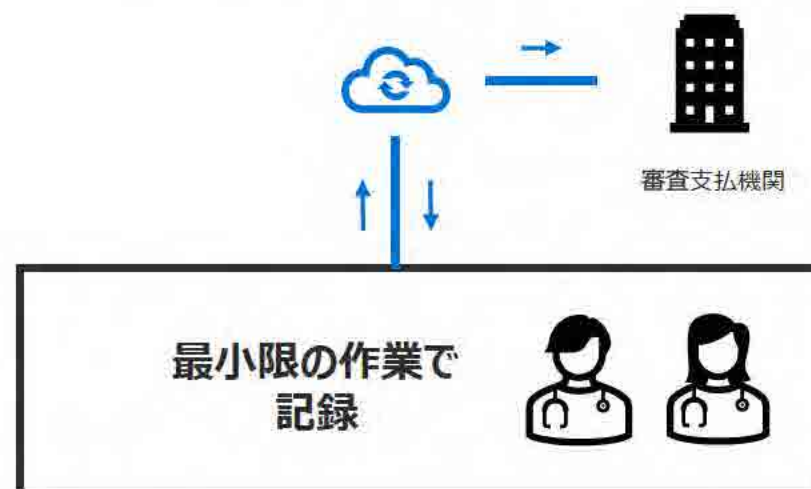
診療報酬請求のための業務が多い



- 診療報酬請求のための記録作業が多く、医療機関によっては、紙の記録をコンピューターに入力し、別システムの検査結果を転記する等の作業が発生している。
- 診療報酬請求用のシステムに入力されている情報が正しいか確認する作業が発生している。
- 医療機関によっては、医師や患者の署名を記録に残すために、紙を印刷し署名をし、その紙をスキャンする作業を行っている。

[あるべき姿]

最小の業務で診療報酬請求



- 入力は1回（ワンスオンリー）の原則の下で、診療結果や検査結果がひとたび保存されると、それに基づき診療報酬の請求が行われ、診療報酬請求の業務が最小化されている。